

貯 法：湿気を避けて  
 室温保存  
 使用期限：外箱に表示

アズレン含嗽剤  
 ※※ **アズノール®ガーグル 顆粒0.4%**  
 Azunol® Gargle Granules 0.4%  
 <アズレンスルホン酸ナトリウム水和物製剤>

承認番号	21800AMX10735000
薬価収載	2006年12月
販売開始	1988年9月

## 組成・性状

### 1. 組成

本剤は1包（0.5g）中、アズレンスルホン酸ナトリウム水和物2mgを含有する。

添加物として乳糖水和物、アラビアゴム、デキストリン、炭酸水素ナトリウム、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、含水二酸化ケイ素、香料を含有する。

### 2. 製剤の性状

本剤は、淡青色の顆粒剤で、においはないか、又はわずかにそう快な芳香があり、味は清涼で、わずかに甘い。

分包識別コード：㊦237

## 効能・効果

咽頭炎、扁桃炎、口内炎、急性歯肉炎、舌炎、口腔創傷

## 用法・用量

1回2～3包（アズレンスルホン酸ナトリウム水和物として4～6mg）を、適量（約100mL）の水又は微温湯に溶解し、1日数回含嗽する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

## 使用上の注意

### 1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類	頻度	頻度不明
口 腔		口中のあれ、口腔・咽頭の刺激感

### 2. 適用上の注意

抜歯後等の口腔創傷の場合、血餅の形成が阻害されると思われる時期には、激しい洗口を避けさせること。

## 薬効薬理

### 1. 実験的口内炎に対する創傷治癒促進作用

口腔内粘膜に酢酸を注入し惹起させた実験的口内炎に対し、アズレンスルホン酸ナトリウム水和物は40μg/mL以上の濃度で有意に創傷治癒促進作用を認めている（ハムスター）<sup>1)</sup>。また角膜上皮剥離等の実験的創傷においても治癒促進効果を認めている（家兎）<sup>2)</sup>。

### 2. 消炎作用

本品は、*in vitro* において白血球遊走阻止作用を認めるとともに、肥満細胞からのヒスタミン遊離抑制作用を示し、またカラゲニン、デキストラン等の各種起炎物質による浮腫、カラゲニン胸膜炎等、種々の実験的炎症を抑制することが知られている（ラット）<sup>3),4)</sup>。その消炎作用機序は、下垂体—副腎系を介するものでなく、炎症組織に対する直接的な局所作用であると考えられている<sup>3),5)</sup>。

## 有効成分に関する理化学的知見

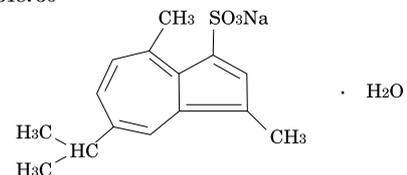
一 般 名：アズレンスルホン酸ナトリウム水和物  
 (Sodium Gualenate Hydrate)

化 学 名：Sodium 1, 4-dimethyl-7-isopropylazulene-3-sulfonate monohydrate

分 子 式：C<sub>15</sub>H<sub>17</sub>NaO<sub>3</sub>S · H<sub>2</sub>O

分 子 量：318.36

化学構造式：



性 状：本品は暗青色の結晶又は結晶性の粉末で、におい及び味はない。

本品はメタノールにやや溶けやすく、水又は酢酸（100）にやや溶けにくく、エタノール（95）に溶けにくく、無水酢酸、ジエチルエーテル又はヘキサンにほとんど溶けない。

本品の水溶液（1→200）のpHは6.0～9.0である。

本品は光により変化する。

## 包 装

アズノール・ガーグル顆粒0.4%：0.5g × 1,200包

## 主要文献

- 1) 吉田博次ほか：薬理と治療，14(3)，1313(1986)
- 2) 佐々木嘉彦ほか：日本眼科紀要，13(3)，116(1962)
- 3) 柴田芳久ほか：薬理と治療，14(3)，1303(1986)
- 4) 宇田昭夫：日薬理誌，56(5)，1151(1960)
- 5) 山崎英正ほか：日薬理誌，54(2)，362(1958)

## 文献請求先

日本新薬株式会社 学術部 医薬情報課 くすり相談担当  
 ☎601-8550 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14  
 フリーダイヤル 0120-321-372  
 TEL 075-321-9064  
 FAX 075-321-9061

※製造販売元

 **日本新薬株式会社**  
 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14